



# かどや通信

第16号

発行日：平成28年9月

発行行：かどや保存会

発行責任者：清水 久行／編集：廣野 克子

## 長尾オルガンで童謡を歌う！

かどやでは初の音楽講座「長尾オルガンで歌いましょう」が九月五日、一階の座敷で行われた。

当日イベントは、鳥羽市教育委員会・生涯学習課の主催で、『広報とば』等で参加者を募ったもので、約二十名が参加し、明治三十年代に作られた長尾オルガンの懐かしい音色に合わせて「もみじ」や「里の秋」「月の砂漠」など懐かしい唱歌や童謡等、五曲を練習した。

指導に当たったのは元音楽教諭の巽耕一さんで、数年前から長尾オルガンの奏者としても積極的に活躍している。

長尾オルガンは、鳥羽市の有形文化財であり、かつ人間でいえば百十歳を超えた老体だ。そのため発声練習等は巽さんが持参したキーボードで行うなど、細かな配慮のもとで実施された。

まず長尾オルガンで「アニーロリー」を演奏し、柔らかな音色を披露した。その後、巽さんは教員時代に培った軽妙でユーモアたっぷりの

な話術で参加者を和ませながら唱歌の練習を重ねた。歌うことが大好きな参加者たちの歌声は、巽さんの巧みなリードによって、「もみじ」は二部合唱にもかかわらず、短時間の練習できれいなハーモニーが生まれた。

当日はＴＶの取材があり、カメラを向けられた参加者には一瞬緊張が走ったが、巽さんの楽しい指導で、笑いの絶えないひと時となった。講座終了後、参加者の皆さんは「楽しかった」を連発し、「次回は友達を誘ってきます」と、にこやかに話してくれた。

当講座は、二回シリーズで、次回は十月三日(月)に開催される。



## かどや探検①

かどやの魅力は、色ガラスと庭だと言われているが、じっくり見ていくと他にも、当主の想いがこもったものが随所に見受けられる。そこで説明がないと気付かない魅力を紹介していく。

### 釘かくし

釘かくしとは、柱やつり束、長押(なげし)が交差する部分に打った大釘の頭をかくすための化粧金具のことで、城や寺社仏閣など格式ある日本建築で見ることが出来る。このような意匠は、当代随一の技術が発揮された素晴らしきものだという。

かどやには二種類の釘かくしがあり、二階には「真向兎まっこうさきり」と呼ばれている釘かくしがある。

兎が用いられた理由としては、兎が多産であることから、①子宝に恵まれて家が繁盛するようにとの願い②兎には火事から家を守ってくれる火災除けの力があると考えられていた③長い耳は他人の意見に耳を傾け、特に政治家は「民意をよく聴き、善政を行おう」という心構えを表すものだそう、飛騨高山の代官屋敷「高山陣屋」や加賀前田家の茶室「きく邸」にも使われているそうだ。

あなたもかどやの兎の釘かくし、見つけに来ませんか。

## 魅力溢れる展示、続々！

かどやでは、毎月様々なジャンルの展示を行っている。七月には鈴鹿市の除村恵子さんのドールハウスの大人気となったが、その後も素晴らしい作品が続々展示されている。

### 《ユーモラスでほのぼの

#### 杉坂董さんの遺作展》

八月は、松阪市出身のイラストレーターで、二〇〇七年に亡くなった杉坂董さんの遺作展が開かれた。

三重県下の祭を一年がかりで取材して描いた「三重の祭り」二十九点をはじめ、神社や寺を描いた絵馬や、ダンボールや粘土を使ったポツプアート風の作品、学生時代の習作等も含まれており、杉坂さんの集大成ともいえる多彩な作品、計百六十六点が展示された。



杉坂さんは、松阪高校から多摩美術大学に進み、高校の美術講師等を経てフリーのイラストレーターとして、雑誌の表紙や挿絵、パンフレット等をユーモラスでほのぼのとしたタッチで描き人気を博した。

杉坂さんのモットーは「一部の人に評価される芸術家より、多くの人に受け入れられる現代の浮世絵師でありたい」で、代表作と言える「三重の祭り」は、鳥羽市の「しろんど祭り」や志摩市の「御田植祭」をはじめ各地の伝統的な祭りを躍動感あふれる表現で描いており、見学者の微笑みを誘った。

杉坂さんの集大成とも言えるこの遺作展は、中日新聞や読賣新聞やTBSテレビとラジオのNHKに加え、NHKテレビとラジオのローカルニュースでも取り上げられ、評判となった。

### 《言葉の贈り物

#### 遠藤美和・指文字アート展》

九月は、グラフィックデザイナーでかどや保存会の理事でもある遠藤美和さんの指文字アート展「言葉の贈り物」が開催された。

指文字は、遠藤さんが数年前に請け負ったチラシの仕事で、適当な活



字がみつからなかったため、試行錯誤の末に自分の人差し指で書いてみたところぴたりき

まりだそう。きれいに書くのではなく、その時の心そのままをこらえた感情で描くデザイン文字だという。

遠藤さんは「この字を見て、温かい気持ちになってもうえたら嬉しい」と話す。その言葉通り柔らかで温かみ溢れる作風が特長だ。

作品は、「愛」や「祈」のように単語だけのものもあるが、「宝ものあなたたちが一番の宝もの」と、大きな文字とその言葉に込めたおもいを小さい文字で綴ったものもあり、どれも心が優しくなるような、まさに「言葉の贈り物」となる作品約三十点が展示された。

初めて指文字を見たという人中には「心が癒されますね」とじっと作品の前にたたずむ方もいた。

### 《古い和服が蘇る

#### 澤村尚子・着物リメイク作品展》

指文字アート展と



並行して、「着物リメイク展」も行われた。これは、伊勢市在住の澤村直子さんがタンヌ等に眠っていた和服を洋服等に仕立て直した作品展で、新聞で紹介されて以降、手芸好きの女性達で連日にぎわった。

リメイク歴二年の澤村さんは、元小学校教諭。退職後に約半年ほど教室に通い、あとは独学で技術を磨いてきたそう。

今回は、留め袖を使ったシックなドレスをはじめ、リバーシブルのジャケットやパンツスーツ、バッグ、帽子等、四十点が展示された。どの作品も仕立てが丁寧で、「すごいなあ！仕事がきれいや」等と、見学者のため息を誘っていた。

二十四日にはかどや塾「古布でおしゃれなペンダントを作ろう」が開催された。受付は先着順だったが、多数の申込があり、一部の方はお断りせざるを得ない程の大盛況だった。



## 残暑忘れて フラダンス体験

残暑厳しい八月二十八日に開催された第三十四回かどや塾は、体験フラダンス教室だった。指導に当たったのは、鳥羽市で十年以上の歴史を持つフラダンス教室「フラ・ハラウ・オ・ナモミ・ピリアロハ」(代表・小久保三千代氏)のメンバー十名で、幼稚園児や男性三名を含む老若男女二十一名が参加した。



参加者は、同教室で準備してくれたスカートやレイ、髪飾りを身に着けてから、姿勢や基本ステップ等の基本練習を行い、雰囲気になじんだところで日本でも馴染みのハワイアンの名曲「月の夜は」と「見上げてごらん夜の星を」に挑戦した。フラダンスは手の動きで言葉(歌詞)を表現するた



め、曲に合わせ、曲に合わせた手の動きも丁寧な教えてもらい、何度も何度も繰り返して練習した。かどやの座敷は三十名がひしめ

くすし詰め状態だったが、音楽に合わせて踊る楽しさに、参加者は暑さも忘れてにこやかにステップを踏んだ。

休憩後は、指導に当たった同教室のメンバーがハワイの海を思わせるライトブルーのドレスに着替え、デモンストレーションとしてハワイアンの名曲3曲を披露した。鮮やかなドレスに身を包んだ優雅な踊りに参加者はうっとり、フラダンスの楽しさを満喫し、帰り際には口々に「楽しかった」を連発していた。

「一度フラを体験してみたかった」と前日にこのイベントを知って参加した女性は、「膝が悪くて運動はしていなかったが、フラは大丈夫だった。とても楽しかったので、ぜひ、続けたい」と嬉しそうに話していた。

## 暑さ忘れるクールな響き ウクレレの音色にうっとり

第四十一回かどや屋下がりコンサート「夏はやっぱりウクレレサウンド」は八月二十八日に行われ、かどやの夏には欠かせないウクレレ奏者・坂井さんが涼やかな音色を届けてくれた。

坂井さんのライブは今回で四回目。回を重ねる毎に磨きがかかり、ジャズやスタンダード、ビートルズ・ナンバー等を坂井さん特有のシャープな演奏で観客を魅了した。

ウクレレには四つのサイズがあり、これまで坂井さんはテナーと呼ばれる大きめのウクレレで演奏していたが、今回は最もスタンダードで最も小さいサイズのソプラノも持参。曲によって二つの楽器を使い分けたり、同じ曲をソプラノとテナーで演奏して音の違いを体感させてくれるなど、ウクレレの様々な魅力も紹介してくれた。

坂井さんの本業は、ウクレレ製作で、プロとして独立して四年だが、ウクレレ愛のこもった作品には高い評価が付けられている。



## 小学四年生も頑張る！ ギタースクール発表会

第四十二回かどや屋下がりコンサートは、スマイルギタースクール(主宰井本純一氏)の第一回目の発表会が行われた。

井本さんは市内で鉄板焼き屋を営む一方、シンガーソングライターとして伊勢志摩・松阪を中心に活躍しているが、今年からギタースクールも開校。かどやゼンザースが弟子入りしたのをきっかけに発表会開催の運びとなった。

前半は、かどやゼンザースが六十年代のフォークやグループサウンドを演奏。後半は、成人男性の木田さんと小学校四年生のヒビキ君が成果を発表し、最後にジュンレノン(名乗る井本先生が自作の曲を披露した。井本先生と木田さんはかどやの雰囲気合うようにと、なんと浴衣姿で登場するなど、演出にも気を配っていた。

木田さんとヒビキ君の応援団は、かどや初来館とのこと。かどやを知っていたら良かった機会にもなった。



## 移住者目線でなかまち巡行

三重県主催の「第二回三重県移住・交流市町担当者研修会」が九月十四日、かどやを主会場として開催された。

これは、三重県下の市町で移住・交流を促進している担当者達が、移住希望者のニーズに合った移住先を探すために実際に「まち」を歩き、移住希望者の立場に立って「まち」を視ることで、改めて「まち」の魅力や課題を発見する手法を学ぶのが目的で、県と鈴鹿市や亀山市、志摩市等の担当者二十一名が参加した。



午前十時にかどやに集合した一行は、オリエンテーションでまち歩きのポイントなどを確認後、昼食をはさんで約二時間半、四人一組でなかまちと呼ばれる旧中之郷（現在の三丁目から赤崎（五丁目）までを散策した。各チームには案内役として鳥羽ガイドボラン

ティアから二名、なかまち界隈に在住のかどや保存会メンバーから三名が同行し、地域の歴史や現況、空家状況などを解説しながら同行した。



講師には東京からNPOふるさとが招かれ、なかまち歩きの視点とポイント等を解説。また、各チームにはまち歩きの際に地域の魅力を伝えるための要点を紹介し、まちで心惹かれた「言葉」と「写真」を集めるよう指示した。午後は、まち歩きで各人が撮った写真を五

点に絞り込むための作業を行った後、チーム毎の発表が行われた。また後半には、なかまちで町おこしを積極的に推進している鳥羽なかまち会代表の坂田さや香さん、副代表の遠藤美和さん、合同会社NAKAMACHI代表の濱口和美さんも加わり、各チームの発表に対して「地元の人では気づかない新しい発見が多々あり、良い参考になった」等のコメントを述べた。その後、参加者と坂田さん等なかまち関係者とも交流を深めて閉会となった。

◆◆貸部屋の案内◆◆  
かどやを有効にご活用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。  
電話〇五九九―二五―八六八六

時間区分	午前	午後	全日	冷暖房設備利用料
部屋	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された使用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

## かどや保存会 平成28年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

お陰さまで27年度には、301名の方々に会員登録いただきましたが、今年度はさらにこの和を広げたいと思います。登録がまだの方は、是非ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年度(H28/4/1～H29/3/31)の年会費(2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入ください。(1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。

- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751  
百五銀行 普通 かどや保存会 801-460713